

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム こぶなと

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500155		
法人名	特定非営利活動法人ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームこぶなと		
所在地	岩手県花巻市下小舟渡262-1		
自己評価作成日	2017年10月24日	評価結果市町村受理日	平成30年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0390500155-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0390500155-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 12 月 6 日

## 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームこぶなとは、「笑う、ほめるde元気になる」を理念とし、春夏秋冬で恵まれた自然に親しみ、笑顔あふれる生活を目指しています。三味線ボランティアでは利用者も一緒に歌い、先生に評価をいただきます。この時に褒めてもらうと今まで見せた事がないような表情で喜んでいきます。また、幼稚園児との交流も行っています。一緒に歌ったり踊ったりすることで、利用者は満面の笑顔です。こうした何気ないちょっとした事でも見逃さず褒めることの大切さを職員で共有しています。また、理念とは別に「あの手、この手で動こう歌おう楽しもう」を目標とし、職員が利用者一人一人の個性をみて、いろいろな手でアプローチして行きます。その結果一人でも多くの利用者が生活の楽しみを見つけてくれたらと思日々努力しています。世代を超えた出会いを大切に、出会いによって利用者の希望になるような、そんな場を提供していけるような体制作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人の理念「幸せの追求」「笑う、ほめるde元気になる」に基づき、職員の皆で検討した事業所目標「あの手この手で動こう歌おう楽しもう」を設定して実践し、理念の実現に向け日々努力されている。  
 ・職員及び利用者・家族の「サービスを提供する側」、「サービスを受ける側」の両方が満足感の得られるホームを目指している。活動の重点は、食事(手作り)、動くこと(生活そのものがリハビリ)、介護の質の向上とし、職員は資格取得(介護支援専門員、介護福祉士、調理師等)に努力している。  
 ・利用者・家族及び職員ともに、毎日「笑い、楽しみ」を実感できる事業所であり、利用者にとって「自分の家みたい」と家庭生活の延長と感じられる居心地の良い事業所の実現が果たされていることが窺われる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム こぶなと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り前に理念の唱和をしている。	法人の理念に基づき、事業所の目標「あの手、この手で動こう歌おう楽しもう」を掲げ、職員個々が、理念の実現を目指して、ケアを実践している。また、毎日、申し送り前に理念の唱和をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、申し送り前に理念の唱和をしている。	地域自治会に加入し、地域の防災訓練に地域の一員として参加している。近隣の保育園の運動会に参加したり、園児たちとスイカ割交流会を行っている。三味線(夫婦)、歌(夫婦)、踊り(利用者の妹)のボランティアが来訪し楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の園児たちとスイカ割交流会を行ったり、神社のお祭りなどに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開いている。利用者の状況、ヒヤリハットの報告、時には敬老会などの行事に参加いただいている。	今年から、家族代表を1人増やし2人とした他、地域のNPO法人(ママハウス)の代表を委員にお願いしている。会議では、利用者の状況、ひやりはっと事例、行事・イベント状況等が報告され、意見交換をしているほか、敬老会に参加したり、昼食を利用者と一緒に食べながら生活の様子をうかがっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者に出席いただいている。	運営推進会議には、市の担当者と地域包括支援センターの職員が参加し、意見や助言を頂いている。市の担当窓口には、会議の案内や議事録を持参したり、生活保護の相談や、要介護認定の更新手続きのため出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。認識不足にならないよう、研修に参加し、職員間で共有している。	身体拘束をしないケアについて、内部研修を重ね意識付けを図っている。また、今年は外部研修に参加したほか、事業所の取り組みとして、スピーチロックをテーマにして、例えば、「ちょっと待って」「まだ終わらないの」と言われたらどんな気持ちになるかなど、職員全員で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士確認し、発生防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、職員間で共有し、必要に応じ活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容を十分に説明し、利用者・家族に理解いただいたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議などの場で家族の意見・要望を聞く機会を設け、ケアに生かしている。	家族が来所された時には、職員は「いらっやいませ」と笑顔で暖かく迎えている。家族から「気になること」「気づいたこと」等の意見を聴くようにしている。また、毎月家族に「こぶなと通信」を送り、食事会や歌の会、誕生会等の様子を掲載したホームの活動状況をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議や、主任会議などで職員の意見を聞く機会を設けている。	月一回のスタッフ会議や、主任会議などで職員の意見を採用し、使いやすくするため厨房の配置を変えたり、棚を設置したりしている。また、日勤と遅番の業務内容の変更の意見が出され、見直している。入浴について、利用者の機能低下に対応するため、機械浴槽の導入を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情などの変化に合わせ、勤務時間の変更など、柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「高齢者ケアを考える」研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会のブロック会議に参加している。交換研修などで他施設との情報交換を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話し、要望等を可能な限り受け入れ実行している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を確認する機会を必ず設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前のアセスメントに重点を置き、本人、家族と検討し、必要とするサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際は利用者と職員が一緒のテーブルで会話しながら食べ、食後の片づけも共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、家族相互に情報交換している。また、家族の面会時には居室などで家族の時間を大切にしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、会話の中になじみの人や場所を取り入れている。	利用者との会話の中に、昔生活した場所や人の名前を盛り込み、記憶を刺激している。毎日面会に来る夫が、時々飼い犬を連れて癒しを醸し出し夫婦の絆を深めている。また、その犬により他の利用者と馴染みと癒しに繋がっている。東和町の同法人グループホームと交流しSL列車を見に行ったり、イギリス海岸や石鳥谷の吊るし雛見物等への、ドライブを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う利用者同士を同じテーブルの席にしたり、職員が間に入り、声掛けするなど孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスが中断しても様子を尋ねたり、家族からの相談を受けたりと状態の把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活などから趣味、特技や嫌いなことなど日常の会話より把握に努め、困難な場合には生活の様子よりうかがい知ろう心掛けている。	開設当初からの利用者が半数以上である。生活歴や日々のかかわりの中から、趣味、特技や嫌いなことなど把握に努めている。思いを伝えることが困難な方は、声がけへの反応や表情等から汲み取るよう心掛けている。最近、ひとつ声をかけると、三つくらいの言葉が返ってくるようになった方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の読み返しや、本人、家族から今までの生活の様子を聞くなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタルチェック、排泄の様子などを基に職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議を行い、利用者に合った介護計画の見直しを行っている。担当者会議では、家族に様子を伝え、要望を聞いている。	主任や担当職員、看護師などが中心となり、家族の意見、希望を取り入れ、またスタッフノート等で共有している気づき等も加味しながらケアマネがプランを作成し、家族に説明している。今後は利用者にも一緒に聞いてもらいたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者一人ずつの介護記録を取り、申し送りを行っている。また、スタッフノートを利用し、全員が目を通すことで情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望も把握し、個々の状態に合わせたサービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所へ散歩に出たり、神社のお祭りの参加や近くの保育園との交流を通じて、楽しみを持ってよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は情報提供書を作成し、施設での日頃の様子を伝えている。	通院には家族が同行し、情報提供書を持参させホームでの様子を伝えている。家族が同行できないときは、職員が同行している。また、体調の変化が気になるときは、職員が家族と一緒に付き添い医師の指導を受けている。かかりつけ医とは、協力関係が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった際は看護師に様子を伝え、指示を受けている。スタッフノートを活用し、共有を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への伺い、家族から様子を聞くなどし、最善に近づくよう話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、ケアマネージャー、担当職員で担当者会議を行い、当施設で対応、取り組み出来ること等を伝えている。	看取り指針を整備しており、看取り対応ができることを家族に説明している。これまで看取り経験しており、看取り期で一時的に頻回の訪問看護が必要になった時などには、かかりつけ医の訪問看護指示書により対応している。現在、3家族がホームでの看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の対応を身に着けるため、AED講習会や、誤嚥の対応など勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して避難訓練を実施したり、消防署への登録にて、各職員の携帯電話へ連絡が来るようになっていく。水害では、地域の訓練に参加、利用者の登録をしている。	夜間、車椅子で砂利道を避難する訓練を、全職員が体験している。その際、外灯が無いことに気づき、倉庫にソーラーの電灯を設置した。今後は、利用者も一緒に小さな訓練を積み重ねて行きたいとしている。なお、非常時には、各職員の携帯電話へ連絡が来るように、消防署へ登録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けはプライバシーを損なわないよう、さりげなく誘導し、配慮している。失禁した際はパット交換を人目のつかないように気を付けている。	トイレへの誘導時は、プライバシーを損なわないよう、さりげなく声掛けしている。排泄の失敗時は、さりげなくトイレに誘導し、清潔を保っている。入浴や着替え時も、自尊心を損なわないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに声を掛けながら何をしたいか、昔は何をしていたかなど利用者が楽しめるような話の掛け方を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせ、本人ができる体の動かし方や習字、計算などをしてもらい、本人のペースで活動に参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装をし、おしゃれを楽しんでもらったり、美容師に来てもらい、カットやカラーをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回手作りの日を設定し、焼きそばや、お好み焼き、鍋物など、野菜の皮むきや切り方、味付けなどをやってもらっている。	月に1回手作りの日を設定し、焼きそば、お好み焼き、鍋物など、野菜の皮むきや切り方、味付けなどを手伝っている。献立は、法人の調理担当職員4名が、1週間分ずつ作成している。ホールに今日の献立を板書している。また、毎日利用者が献立を筆書きして、自室の前に貼ってある。今の時期は、風邪予防に生姜を味噌汁に入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は体重、体調に合わせて、調整している。量が食べられない方には高カロリー食を提供している。医師より指示のある方は、水分量などを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。本人に行ってもらうが、磨き残しがないようにスタッフが仕上げを手伝っている。歯磨きができない方には口腔ケアガーゼなどを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意訴えが出来る方は都度対応し、他の方は定時に誘導し、利用者に合った対応を心掛けている。	全員、介助を必要としている。尿意の訴えが出来る方はその都度対応し、表情に変化があったり、落ち着かない様子のときは、声掛けし誘導している。夜間ポータブルを2名の方が利用している。立ち上がり不安定の方は、床センサーを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝夕の申し送りに確認し、水分の接種量、運動等に気を付け、便秘しないよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の体調や行事、受診がある場合等により調整したり、変更している。	日曜を除き、毎日浴室の準備をしている。浴槽は個浴で、3方向から介助できる設置になっている。1日置きに入浴している。その日の体調や行事、受診がある場合等は、変更、調整している。利用者の介護度が高くなってきており、機械浴槽の導入を検討をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は少し休息できるよう支援し、夜間は照明・物音・室温に気を配り、安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬について情報を共有し、副作用がないか、表情や動きに注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞たたみや食器拭き等出来ることをしていただき、生活意欲を高める支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は気分や体調に合わせて無理のない外気欲をしたり、地域の祭りを見物したりしている。	風邪の予防・体力づくりは食事や日光浴と運動と考え、散歩を日課としている。寒いと言いつつも良い表情で散歩から帰ってくる。天気悪いときや体調に合わせて、室内やデッキでの立ち上がり、歩行訓練を実施している。また、地域の祭りを見物したり、花見や紅葉狩り等のドライブも楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人へはいつでも必要な物は購入できることを伝えている。家族へ本人の意向を伝え、了承を得て職員が購入、または持参していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちに寄り添い、希望があれば電話の取り次ぎやハガキ等購入している。家族へ様子を伝え、対応を相談しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調温度や採光照明、消臭対応に注意している。植物や手作り小物を配し、和らいだ空間作りに努めている。特に、つまづきや転倒予防のために歩行スペースを絶えず確認している。	共用のホールは、日当たりが良く、消臭に配慮している。利用者から、「いらっしやいませ」の言葉を頂いた。テレビや大きなソファ、利用者の姿勢や介助に配慮した高さの異なる食卓が配置されている。壁には、トイレトーパーの芯で作ったサンタ人形の手作りタペストリーが、季節を感じさせる。全員が介護シューズを履いて転倒やつまづきに注意し、歩行スペースの安全を確認している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の様子や体調状態の変化に合わせて、常にテーブル配置や席替えの配慮を行っている。移動ベンチ等を利用し、テラスや施設内どこにでも腰かけ活動できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や持参の物・贈られたものを飾るなど、本人や家族の意向に合わせて、気に入った空間になるよう心掛けている。	木目調のベッド、エアコン、クローゼットが備え付けてある。寝具、テレビ、椅子等使い慣れた家具を持参している。家族の写真や自筆の習字、孫の描いた絵、花が棚に飾っており、居心地よい雰囲気である。掃除は毎日職員が実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差解消と必要な手すりを配置し、利用者の自力の立ち上がりと歩行が継続できる環境づくりのもと動いてもらっている。浴室と浴槽内に補助いすを利用、怖がることのない楽な入浴支援を行っている。		